

日本の原爆被爆者における自殺の生涯リスク

広島、長崎の原爆被爆者における精神心理的影響についてはよくわかっていません。そこで放影研では、原爆被爆によって生じる心的外傷¹の大きさを間接的に示すものとして被爆体験の厳しさが原爆被爆者の自殺死亡率と関連しているかについて統計手法を用いて推定しました。

対象となる調査集団について、年齢を限らず全体的に検討した結果、被爆体験の厳しさを表す指標として、爆心地²からの距離、放射線をさえぎった建造物の有無や建物の種類もしくは重大な傷を負ったことと自殺死亡率の関連性は認められませんでした。一方、被ばく時年齢が25歳未満で、屋外で被ばくした人および閃光火傷³を報告した人は、何らかの建造物の中にいた人に比べ、自殺のリスク（危険性）の上昇が認められました。性別を調整した解析では、これらの関連性は男性においてのみ観察されました。また、爆心地に近いことと自殺のリスクとの関連性について、女性において、統計学的に明確ではないものの上昇がみられ、被ばく時年齢別に検討すると15歳未満で被ばくをした女性においてこの上昇は統計学的に明確な関連性を示しました。

これらの調査結果から、対象となるこの被爆者調査集団全体をみると、爆心地からの距離や何らかの建造物の有無、および重大な傷を負ったことは原爆被爆者の自殺リスクに影響を及ぼしてはいないと思われます。しかしながら、原爆被爆者の自殺リスクへの影響は性別や被ばく時の年齢によってばらつきがあるようで、若年の被爆者は感受性がより高いかのようです。

【注釈】

¹ 心的外傷：

非常に恐ろしいまたは不快な体験によって引き起こされる長期にわたる極度な心のショック状態。

² 爆心地：原子爆弾の空中爆発点からみた真下の地点。

広島と長崎の爆心地を視覚的に表した地図は以下の URL からご覧ください。

<https://www.rerf.or.jp/glossary/hypocent/>

³ 閃光火傷：原子爆弾の爆発と同時に光速で拡散した熱によって受ける火傷。

doi.org/10.1017/S204579602100024X

*doi (digital object identifiers) とは、ほとんどのデジタル情報に与えられた、コンテンツ（論文や作品等）独自の不変番号で、インターネットの検索を通じてオンライン資料を特定するために用いられます。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。